

# 東三河の「海」

ロードバイクで巡る



## サイクルトレインで田原まで

渥美半島の気持ちいい道をしっかり走ろうと、豊橋鉄道渥美線のサイクルトレインを利用して豊橋駅から三河田原駅まで一気にワープ。都会の喧騒を離れ、花の生産日本一の「花のまち」からライドをスタートした。





### 伊良湖にしかない景色

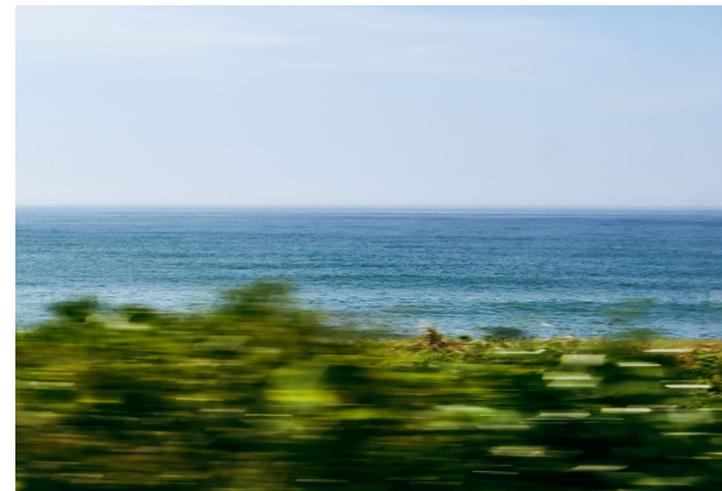
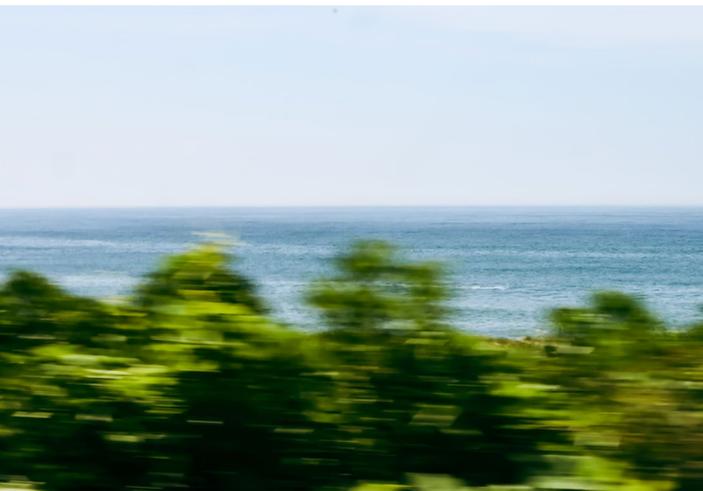
渥美半島を反時計回りに走ると、まるでここが先端であることを主張するように立ち並ぶ渥美風力発電所が見えてくる。真っ直ぐな西ノ浜シーサイドロードを駆け抜けるとそこは伊良湖岬。灯台を抜けると太平洋が目飛び込んでくる。



### メロンに引き込まれる

海岸線から内陸に進むと一面に広がるのは畑と温室。渥美半島が農業王国と呼ばれるのも納得の広大な農地が広がっている。もちろん季節によって収穫物は異なるが、夏の暑さを避けるようにメロン看板が目立つカフェに飛び込んだ。





### 海と畑を交互に走る

太平洋の青と、人々の営みと。ずっと海岸線沿いを走ることができないもどかしさがありながらも、内陸を走ることのでられる出会いもある。時間短縮のために国道を走ることもいいけれど、人間サイズの小道を走るのも面白い。



## 真っ直ぐな海岸線

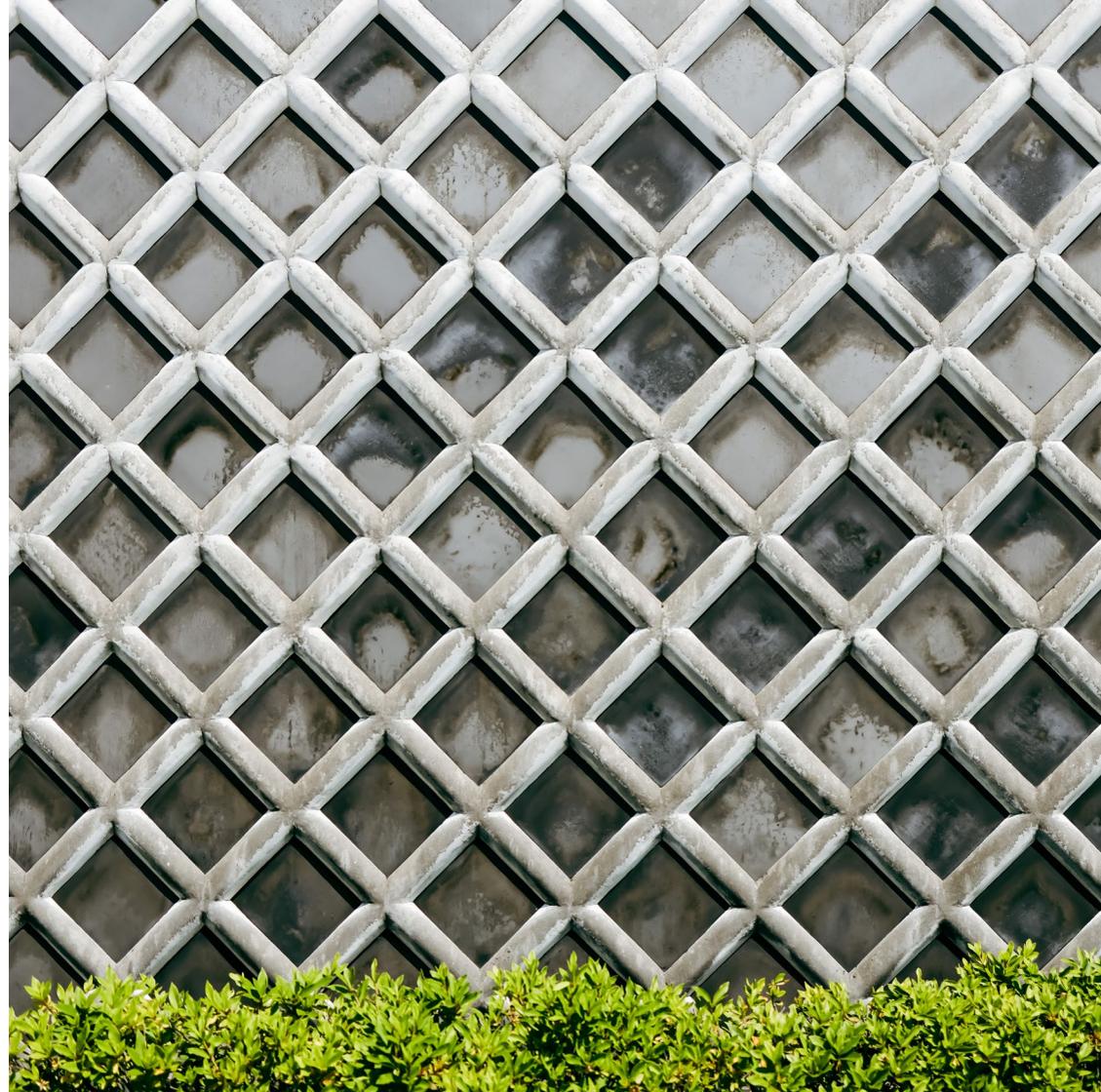
太平洋岸自転車道のマークに沿ってもいいし、地図と睨めっこして自分らしいルートを探してもいい。高所恐怖症の人は後退りしてしまいそうな久美原展望台からは、延々と、地平線と水平線の間まで真っ直ぐ続く海岸線が見える。





### かつての大動脈を辿る

そこが東海道であることを交通標識が教えてくれる。何世紀も前に旅人が往来した風景を思い浮かべながら、歴史好きサイクリストはペダルを漕ぐ。忙しなく人とモノを運搬する国道1号線と東海道新幹線を横目に、宿場町を繋ぐ旧来のルート人間らしいスピードで走るのもまた良い。





### 三十三番目の二川宿

東海道五十三次において江戸日本橋から数えて三十三番目、三河国の東端に位置する宿場町が二川宿。江戸から京まで歩いた当時の旅人にとってはいよいよ後半戦。馬場本陣と旅籠屋の晴明屋が当時の面影を今に伝えてくれている。良く見ると、家紋は三匹の蝶が舞う「伊豆蝶」だ。





### 路面電車とカヌレ

海岸線を走り、旧東海道を抜け、街にやってきた。路面電車の線路と複雑に入り組んだ架線が目的地の豊橋駅までいざなってくれる。ちょっと水上ビルに足を伸ばして、カヌレとアイスカフェラテでライドを締めくくった。





ロードバイクで巡る東三河の「海」

撮影:辻啓/岩崎竜太

発行:東三河県庁(愛知県東三河総局)

